

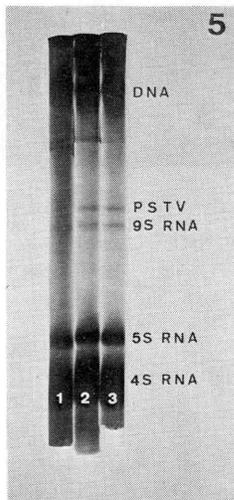
図 3 感染次代男爵薯の病徴。植付後 30 日目。
左二列：無接種，中央二列：PSTV-M 接種，右二列：PSTV-S 接種

図 4 PSTV-S に感染した男爵薯（感染次代）の症状。植付後 40 日目。

表1 交叉免疫法試験結果

接種日	第1次接種植物の発病数		第2次接種植物の発病数		
	Severe	Mild	Cross-prot.	Severe	None
4.20	4*	0	0	7	0
6.8	10	1	0	10	0
7.15	10	0	0	10	0
8.9	10	1	1	10	0
9.13	10	0	0	10	0
10.6	7	0	0	2	0
11.16	0	0	0	0	0

* トマト10本当りの発病本数



6

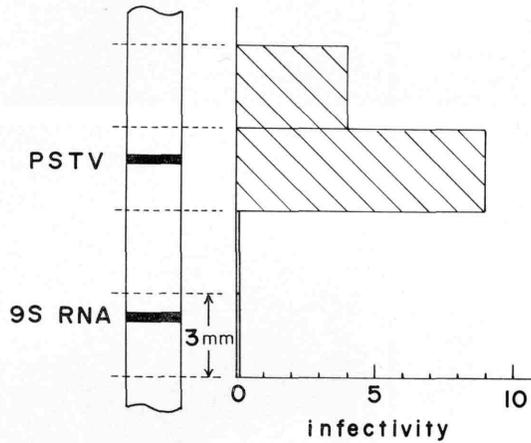


図5 PSTV 感染サイエネトマトの電気泳動パターン。

1. 無接種区。2. PSTV-M 接種区。3. PSTV-S 接種区。

図6 PSTV バンドの感染性の確認。

感染性は、泳動後4本の未染色ゲルを3mm幅に切断して同じ位置のストライプをひとまとめにして、その抽出液を Sheyenne トマト9本に接種して、その発病本数で表わした。

又、MORRIS and SMITH の方法 (1977) では、泳動用試料の体積が 500 μ l という核酸の電気泳動試料としては極めて多量の試料を用いているため、この試料体積について検討した。PSTV-M 感染男爵薯の濃縮核酸試料を用いて、表-2 のように 50 μ l 又は 100 μ l の核酸試料に水を加えて総体積として 50 μ l ~ 500 μ l の試験区を作り試験した。泳動完了時間は、約3時間から4時間までと試料総体積が多くなるにつれ長くなったが、染色後の泳動パターンに差はなく、電気泳動時の試料体積は 50 μ l ~ 500 μ l まで適当であることがわかった (図7)。

表2 泳動用試料体積試験

試験区	核酸試料 (μ l)	加えた水 (μ l)	総体積 (μ l)
1	100	400	500
2	100	100	200
3	100	0	100
4	50	450	500
5	50	200	250
6	50	0	50